

月刊

みやぎのボランティア・市民活動情報誌

ゆるる 杜の伝言板

2014
3月号

Vol.202
毎月1日発行

災害ボランティア・NPO活動



サポート募金

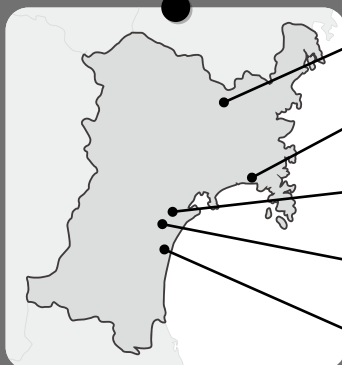
赤い羽根「災害ボランティア・
NPO 活動サポート募金」助成事業

今年末の完成が待たれる
子どもの村

NPO法人子どもの村東北



特集 復興への道



NPO法人ウィメンズアイ P.2

NPO法人応援のしっぽ P.3

みやぎいのちと人権リソースセンター P.4

NPO法人子どもの村東北 P.5

関上復興だより P.6

トピックス P.7

『月刊ゆるる二〇〇号記念イベント開催報告』

みやぎNPOプラザからのお知らせ P.8

～市民活動へのはじめの一步～
きっかけはNPO夜学!

今月の助成金情報 P.9

Information P.10-15

寄稿

女性たちの活躍を 応援しています



● NPO法人ウィメンズアイ
副代表理事 塩本美紀さん

私たちNPO法人ウィメンズアイ（略称：WE）は、もともと東日本大震災後の災害救援ボランティアとして始まりました。避難所での聞き取りを通じて、女性が抱える困難を知り、女性視点での支援が必要だという思いから「RQ被災地女性支援センター」という名前で活動をスタートさせ、昨年六月にNPO法人として組織を一新しました。

この二年半県内では主に登米市と南三陸町を中心に、被災地の状況の変化にあわせ活動を続けてきています。

集いが生み出すつながり

当初は仮設住宅の集会所での活動が多かったのですが、一昨年には「誰でも気がねなく立ち寄れる場所」での集いに力を入れています。

たとえば、ある日の南三陸町のカフェでの刺し子教室。先生は地元的女性。参加者は、仮設住宅に住む方、家を建てて仮設から出た方、近所にお住まいの方、気仙沼の方など。「手

づくりが大好き」な人たちの共通の趣味からここで出会いました。作品を見せあつては話が弾みます。教室は好評で、今年から、歌津の公民館でも開催することになりました。

また、たとえばある日のシングルマザーの会。子どもたちがボランティアと遊んでいる間に、ママたちは子育ての悩みを打ち明けあいます。会を重ねるごとに新たな参加者が増え、安心して話ができる場として口コミで広がっています。

こうした共通の趣味の集まり、同じ課題を抱えた人たちの集まりをつくる活動を「広域生活圏におけるテーマ型コミュニティ育成事業」と呼んでいます。高台移転で新たな町が生まれるまでの過渡期、人々の信頼の絆をいくつもの層で織りなしていくことが、ゆくゆく地域の力になると考えています。

女性の目線が見つめるもの

災害時に女性たちの支援を行うなかで、女性のまわりには赤ちゃんや

子どもたち、お年寄り、病気の人など「誰かの助け」を必要とする人々がいることも目の当たりにしました。ミルクは？ おむつは？ お年寄りはそこまで歩けないよ？ こうした弱者のニーズに応えるには、そばにいて困りごとと向き合っている女性たちの目線が支援に活かされなければならぬと気づきました。

それは平時においてもいえることです。普段できていないことは災害時にはなおさらできません。くらしを見つめる女性のまなざしが普段からもっと活かされる社会を作ることとはできないだろうか。そんな気持ちから今も宮城で活動を続けています。

力をつけてさらなる活躍を

外部者だからこそ、客観性を保ちつつ目の前のことを「自分ごと」として受け止め行動していこう。団体を立ち上げたときから、持ち続けている気持ちはいつも同じです。

昨年から始めた新プロジェクト「女性の目線で地元を元気に！ in 南三陸町」では、復興のために何かしたいと考えて動き出している女性たちの試みが成功するよう、こまめに相談会を開催し、中小企業診断士など必要な専門家に繋ぎ、学びの機会を提供するなどの活動を行っています。

▶ 昨年十二月、南三陸町で行ったワークショップ。南三陸町を映像で表現しました



プロジェクトの一環として昨年十二月に行ったワークショップでは「町を元気にしよう」と何が始めている人、始めようと思っている人は？」の問いかけに参加者のほとんどの人が手を挙げてくれました。

こんな人たちがいるから、この町はきつと一歩先へとすすんでいく。みなさんがその気持ちを發揮する力をつけていく。エンパワメントの助けになることが私たちWEの仕事だと思いを新たにしました。

NPO法人ウィメンズアイ

〒987-0511 登米市迫町佐沼字大綱
218-1 コンテナおおあみ内
●TEL：0220-44-4210
●E-mail：info@womens-eye.net

地元団体を

隣人として支える

●NPO法人応援のしっぽ

震災当時、関東で一般企業に勤めていたNPO法人応援のしっぽ代表理事の広部知森さん。三カ月後の六月末にボランティアとして石巻に入り、南境の集会所を拠点とする「ボランティア支援ベース絆（現一般社団法人OPEN JAPAN）」の一員として、主に大川小学校周辺の拾得物の洗浄・返還をしていました。

●●●地元の人々にノウハウを●●●

石巻で様々な支援団体を目にしてきた広部さんは、そこに地元の団体の姿がありません。気がなくなっていました。「二年後、三年後はどうなってしまうのか。彼らがやっていることをいつかは地元の人たちが肩代わりしなくてはいけない」と、外部から支援に入っている団体が持ついる豊富なノウハウを地元の人々につなぐ、そんな役割が必要だと考え、その年の十月、任意団体「応援のしっぽ」を立ち上げました。

その後広部さんは「自分に団体運営の経験がなければ、他の団体を支

援することはできない」と、情報発信のHPを立ち上げ、経理など団体運営に関することも一通り経験していきましました。

そして二〇一二年九月、現在の主な事業である、被災地活動団体応援サイト「応援もなか」を立ち上げます。

●●●「顔が見える」応援サイト●●●

「応援もなか」とは、登録団体の報発信を支援するほか、寄付を集める支援、販売促進の支援を行うポータルサイトです。登録団体数は石巻市だけに限らず県内外合わせ、現在三十八団体。「応援もなか」のトップページから各団体のブログ記事が読め、応援したい時は、一口一〇〇〇円の寄付や手づくり商品の購入が可能です。サイトの内外を通じて、これまでに約一三〇万円の寄付をつないできました。

団体を登録するにあたって応援のしっぽが心がけているのは、必ず団体の代表者と顔を合わせて話を聞く

こと。メールのやり取りだけでは、サイトに掲載することはしません。

「ちゃんと顔が見える相手を応援したい」と広部さんはいいます。「応援もなか」の各団体紹介ページに必ず代表者の顔写真があるのはそのような理由からです。

登録に際しては、団体の代表者、会計担当を決めてもらい、団体の銀行口座も作ります。被災地で住民が立ち上げた団体には、これまでに団体運営の経験を持たない主婦だけのグループもあります。そのような団体では、代表者や会計担当が決まっていなくても多く、「応援もなか」に登録することが、そのまま団体運営の基礎固めの第一歩にもなっています。



▶今年二月に亘理で開催されたものづくり交流会にて、団体の相談に応じる広部さん(左)

ます。

石巻市で活動するものづくり団体「おだつてばりい」は二〇一二年秋頃から、「応援もなか」を通じて応援のしっぽが支援を続けている団体です。「新しい販路のご紹介など、色々なことで応援のしっぽさんにはお世話になってます」と「おだつてばりい」で代表の秋山京子さん。

●●●長期継続のため認定目指す●●●

応援のしっぽの運営体制は、広部さん含め、現地スタッフが三名。二〇一二年十一月にNPO法人化したばかりではありますが、さらに認定NPO法人取得も視野に入れており、現在着々とその準備を進めています。

「団体を立ち上げた時から認定NPO法人を目指しています。五年、十年と長く続けていくためには、認定を取って寄付を集められる団体にしていかなくてはならない。新たな活動のアイデアも溜まっていますが、まずは地固めを優先する構えです。」

NPO法人応援のしっぽ

〒986-0824 石巻市立町2-7-25-2F

●TEL : 0225-24-9258

●FAX : 0225-24-9259

●E-mail : info@oennoshippo.org

●URL : http://oennoshippo.org/

いのちと分権、

分野を越えてつながる輪

●みやぎいのちと人権リソースセンター

東日本大震災から二年十一か月が経った二月十一日、仙台市福祉プラザでみやぎいのちと人権リソースセンター(以下、リソースセンター)が主催するシンポジウム「いのちと人権を支える」東日本大震災の3年を経験して」が開催されました。このシンポジウムはリソースセンターで活動する八団体が、どのように支援活動を行ってきたかを報告し、今後、復興にどのように関わっていくかを考えるために開催されました。

●●協働することを得た活動の拠点●●

リソースセンターは、CAPみやぎ、東北HIVコミュニケーションズ、NPO法人チャイルドラインみやぎなど子どもへの暴力、虐待、性に関する問題、HIVなど、様々な人権問題に取り組む三つの団体が中心となって、二〇〇四年十月に設立された団体です。二〇〇五年四月から宮城県の遊休施設を借り受け、人権関連NPOのための拠点施設「みやぎいのちと人権リソースセ

ンター」を運営しています。協働で活動の場を得ることで、これまでそれぞれの団体が培ってきたスキルとネットワークを活かし、相乗効果での飛躍を目指してきました。当初三団体だったメンバーも、現在では、宮城骨髄バンク登録推進協議会、仙台ターミナルケアを考える会、宮城県臨床心理士会、NPO法人こねつと発達支援センター、えくぼ親



▶右からリソースセンター共同代表の小浜耕治さん、小林さんと仙台ターミナルケアを考える会別所さん、宮城県臨床心理士会有住洋子さん

の会が加わり八団体になりました。

●●それぞれに声なき声を拾う●●

今年設立二十五周年を迎える仙台ターミナルケアを考える会は、平成元年から癌によって終末期を迎えた患者や家族に対するケアや、市内の病院に緩和ケア病棟を設置する運動、「生と死」について学ぶ講座などを行ってきました。最近では、在宅でのホスピスケアの情報提供にも力を入れており、会員や患者の質問を集めた「在宅療法Q&A」を発行しました。震災後は、命を意識する人が増えたことから命を考える「生と死」のセミナーにも力を入れ、青少年のための出前講座も新たに実施しています。

昨年十二月に設立二十周年を迎えた東北HIVコミュニケーションズは、エイズによって自らの生命や生き方に影響を受けた人々がともに生きる社会を作ることを目指し、エイズに関する学習会、セクシャルティ・人権に関する人材育成とネットワークづくりなどを行ってきた団体です。震災から一か月後に、電話相談を再開。相談以外の活動でも、通院ができず薬が手に入らなくなったHIV感染者に情報提供したり、性同一性障害など性的少数者が災害弱者となっていた現実を指摘したりしてきました。

こねつと発達支援センター緊急こどもサポートチームでは、津波で多くの子どもたちが亡くなった石巻市立大川小学校の卒業生の学習支援を行うほか、遺族のメンタルケアなどを行ってきました。サポートチームの別所英恵さんは、「学習支援は、子どもの気持ちに勉強に向かうまで寄り添って初めてスタート地点に立てます。子どもたちを信じて、否定しない、強制しない、丁寧に向き合うことを大切に、ずっと見守っていきたい」と語ります。

NPO法人チャイルドラインみやぎ代表の小林純子さんは、震災直後、仮設住宅や避難所で子どもへの支援が手薄であったため、率先して子どもたちの心のケアや居場所づくりを行ってきました。

それぞれの分野に隠れた問題があり、声に出せない人がいて、気づいた人たちが声を上げていかなくてはならない状況です。いのちと人権に関わる団体が協働するリソースセンターは、これからもお互いの持ち味を活かし、いのちと人権を大切にしたい復興を目指して活動していきます。

みやぎいのちと人権リソースセンター

〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2

●TEL: 022-292-5290

●FAX: 022-292-5291

寄稿

すべての子どもに 愛ある家庭を。



● NPO法人子どもの村東北
事務局スタッフ 菅原温さん

はじめに

NPO法人子どもの村東北は、家庭に恵まれない子どもを育てる里親家庭を作り、その里親を支援する組織です。東日本大震災後の二〇一二年に設立され法人化されました。「子どもの村」の活動は、一九四九年オーストリアで組織された国際NGO「SOS子どもの村」が始まりで、現在、世界一三三か国に広がっています。日本では「子どもの村福岡」が二〇一〇年に創設されました。「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンに、家庭に恵まれない子どもを実親に代わって育てる里親家庭を数軒作り、運営する国際的活動といえます。そのような「子どもの村東北」（以下、子どもの村）を、二〇一四年十二月に、仙台市太白区茂庭台に開村しようと準備を進めています。現在の大きな目標は、建物の建設と、村の中で子どもを育てるスタッフを採用し育成することです。

社会的養護のこれから

東日本大震災で、両親や片親家庭の親を亡くした震災孤児は東北で約二五〇名います。また、病気や虐待等により実の親に育てられない子どもも多く、このようなお子さんを実親に代わって社会の責任で育てることを社会的養護といえます。

宮城県の社会的養護の歴史は古く、児童福祉施設や里親が、その時代時代の子どものたちを守り育んできました。長年、施設が主に社会的養護を担ってきましたが、国は、「施設養護から家庭養護」へと大きく方針転換をしようとしています。子どもを育てるために必要な愛着形成には、同じ大人が、継続的に一貫して育てていくのが重要であるという考え方からになります。今後、里親が増えていくことが予想されますが、里親が実親に代わって子どもを育てるためには、養育支援がどうしても必要になります。社会的養護が必要なものとは、虐待を受けていたり、様々な障害を持っていることが多

子どもの村について

く、養育支援なしには適切な養育ができにくいからです。このような養育支援をセットにして里親家庭を作ろうとしているのが、子どもの村といえます。

子どもの村では、今後、里親（子どもの村では育親と呼んでいます）が住む五棟の「家族の家」と、育親を支援するスタッフが勤める「センターハウス」を建設します。センターハウスには、村長と育親アシスタントが常駐して、育親を支援します。必要があるときには、小児科などの医師や心理士、ソーシャルワーカー等の専門家が、随時、里親や里子の支援をします。また、東日本大震災で孤児となったお子さんを育てている養育里親に対する育児支援や、虐待をしている親を対象とした家族再統合、地域で子育てに悩みを抱える方々に対する支援プログラムも計画しています。

さらに、子どもの村では、さまざまな研修会を開催しています。子どもの村で勤めるスタッフを養成することも大きな目的ですが、子どもを理解し、適切な養育をしていくことに役立つ内容です。児童福祉関係職員や教育関係者など子どもと関わる専門家だけでなく、一般家庭の子育てにもヒントが満載の内容になって

◀ 昨年十月に開催された里親専門研修の様子



いますので、広く市民の方々に足を運んでいただきたいと思います。詳しくはホームページをご覧ください。と幸いです。

NPO法人子どもの村東北

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30
角川ビル402
●TEL : 022-748-6936
●FAX : 022-748-6931
●URL : <http://soscvtohoku.org/>

顔の見える新聞

—もう一度心をひく—to

● 関上復興だより

毎朝バス停で顔を合わせるあの子。犬の散歩のときに挨拶を交わすあの人。名前は分からないけど顔は知っている、「顔見知り」の関係が、名取市関上地区にはありました。

『関上復興だより』（以下復興だより）は、そんな地域のつながりを大切にしたいという思いから発行されています。

●●● 「手作り」で八〇〇〇部 ●●●

復興だよりは、二〇一一年十月に第一号を発行してから一、二か月に一号のペースで発行されているフリーペーパーです。最新号は二十四号（今年一月三十一日発行分）、発行部数は八〇〇〇部。

作成に関わるスタッフはみな仕事を持った人たち。取材から編集、完成後のポスティングまで自分たちで行っており、発行に必要な費用は主に広告収入と寄付で賄っています。

関上は名取市の港町で、東日本大震災では大きな被害を受けました。震災後、当たり前だった地域のつな

がりやが薄れ、特に避難所を離れた後、住民たちはばらばらになり、コミュニティは失われました。そんな中、関上復興だより実行委員会は、コミュニティ再生のため、復興だよりの発行を始めます。第一号には多くの反響があり、用意した一五〇〇部は二週間ですぐなくなりました。寄付や広告の申し出もあり、次号からは広告が掲載されるようになりました。



▶ 今年一月に発行した二十四号の発送作業をする格井さん（左）とメンバー

内容は復興の進捗状況や住民の声、地区の小学校の行事紹介や商店などの営業再開など。その後も「懐かしい顔を見ることができた」「まちの様子が分かりよかった」など多くの声が寄せられました。

昨年六月、実行委員会は団体名を「関上復興だより」としました。現在制作に関わるメンバーは毎月六、七人。それぞれ本業を持ちながらなので、月によって、参加メンバーには増減があります。毎号題材を持ち寄り話し合っ、取り上げる内容と担当を決めています。

●●● 役割の変化 ●●●

「復興だよりを取り巻く環境は変化している」と編集長の格井直光さんはいます。昨年秋季頃から関上を離れる人が増え、購読をやめる人もいること。逆に、情報を得たいと県外の読者が増えてきていること。メディアで取り上げられることが減った今、復興だよりは関上の復興の状況を知る貴重な情報源です。復興の過程を紙面にすること、残すことで、他の地域や未来に活かしてほしいと、格井さんは考えています。「顔の見える新聞」として関上の人々を支えることに加えて、後世に震災の教訓を伝える役割が重要になってきています。

編集側にも変化があります。号

数を重ねるにつれ「出来事を伝える」ことを大切にしようになりました。独自の意見を求める声もありましたが、復興だよりは起こった事実を書くにとどめ、考えることは各々に任せたいと考えています。漁業従事者などなんとしても関上に戻りたい人、人口が減った関上では商売にならず戻りたくない人。同じ関上の被災者でも、様々な状況の人がいます。「立場は違っても、関上の復興を願う気持ちは同じ。お互い尊重し合うことができれば」。格井さんの言葉です。

●●● 心の復興 ●●●

復興を成し遂げるまで発行を続けたいという格井さん。復興について、次のように考えています。「ひとつの区切りとして、災害公営住宅に入居した人たちが自治会を作り、コミュニティを作るようになったら、あとは任せるしかないと思っています」。

関上が復興したと思えるその日まで、復興だよりは関上の人たちの心のふるさとであり続けます。

関上復興だより

〒981-1213 名取市関上1-1-13

（関上まちカフェ内）

● TEL : 090-3583-1359

● E-mail : yuriage.fd@gmail.com

トピックス

月刊ゆるる二〇〇号
記念イベント開催報告

NPO法人杜の伝言板ゆるるでは、本誌『月刊杜の伝言板ゆるる』が今年一月号で創刊二〇〇号を迎えたことを記念し、二月一日に記念イベントを開催しました。

井上きみどりさん基調講演

この日のイベントでは、仙台在住のノンフィクション漫画家井上きみどりさんが基調講演を務めました。講演タイトルは「わたしが震災まんがを描いたわけ」。著書『わたしたちの震災物語』を描くにあたってのエピソードです。

震災後、関係が深かった関東の医療関係者からの医療支援情報を被災者へつなぐかたわら、沿岸部で活動していた各ボランティア・支援団体の情報を収集していた井上さん。「こんなに支援団体があったのか。まるで日本中の団体が一同に集ったかの様」とまずその団体数に驚きました。そしてその支援活動の様子はぜひ伝えなくては、と各地を回りまんがに仕上げていきました。

後半は、井上さんが現在力を入れている国際支援について、昨年取材で訪れたアフリカのザンビア共和国の話でした。会場のスクリーンにはその際の写真が次々に映し出されました。

日本とはまったく生活環境の異なる国。そのような国を実際に訪問し、その国の人々と触れ合ったことで、情報を伝えるということを考え直すきっかけになったそうです。

市民メディアを語る！

井上さんの基調講演に続いては、本誌編集長大久保朝江がコーディネーターするトークパネル。ゲストパネラーには、河北新報社デジタル戦略委員会シニアアドバイザーの佐藤和文さん、山元町臨時災害FM放送局りんごラジオ局長の高橋厚さん、地域生活支援オレンジねっと代表の荒川陽子さんを招き、それぞれの立場から市民メディアというキーワードを中心に話をしてもらいました。地域生活オレンジねっとは南光台

右奥から荒川さん、高橋さん、佐藤さん、コーディネーターの大久保



に事務所を構え、地域住民同士助け合い、住み良い町を作るために活動しています。その活動の一環として、地域情報誌『ときめき通信』を年に四回、八〇〇〇部発行しています。

「過去に掲載したあるグループの方から、『あるとき載せてもらったときめき通信、ずっと残してるんです』と言われたことがあって、そういうことが励みになっています」と荒川さん。

そして、震災直後に山元町で臨時災害FMを立ち上げ、ラジオで地域住民に必要な情報を伝え続けているりんごラジオの高橋さん。

「山元町の活性化のため、震災前

からコミュニティFMの開局を呼びかけていたのですが、開局に至らないまま震災を迎えてしまいました。震災時にラジオがあれば救えた命があったかもしれません。他地域のことは他のメディアが伝えているので、山元町の情報を一〇〇%流すことが我々の役目と心がけています」。

河北新報社という商業メディアに属する立場の佐藤さんからはこのような意見も。

「市民メディアという定義は難しいけれど、震災報道のため、ひたすらに各地域を足で回り、地域のための情報を発信しようとした河北新報の記者たちを見て、これはまさに市民メディアだなと感じました。そして、これからの新しいメディアはNPOのような非営利組織にこそ可能性があると思っています。なぜなら各非営利組織はもともそれぞれの活動分野の専門性を備えており、地域・市民とのつながりもあるからです」。

当日、会場は定員いっぱい約八十名の参加者で埋まりました。イベント後に開催された交流会でも、情報交換し、親睦を深め合う話し声が続きました。



きっかけはNPO夜学! *

～市民活動へのはじめの一步～

みやぎNPOプラザ

このページは、みやぎNPOプラザからのお知らせです。

▶ 第四回の夜学の様子。仲間を見つけるためのヒアリング中の参加者たち



「NPOってなに?」

「市民活動に興味はあるがどのように活動すればよいかわからない」。

NPO夜学は、そんな想いをもつ、普段、学業や仕事で忙しい学生、社会人を対象に企画・開催された講座です。まず、NPO・市民活動について知り、これから実際に市民活動へ直接関わっていく人材を一人でも多く育成することが目的です。

想いを伝え共有する場

「NPO夜学」は実際に活動するためのステップアップとして、「NPOとボランティア」「NPOを立ち上げる」「働きながらNPO」「一緒に活動する仲間を見つける」「NPOと出会う! N活(エヌカツ)ー」の五回に分けて開催しました。各回、実際に第一線で活躍しているNPOのリーダーをゲストに招き、それぞれの

テーマに焦点を当て、活動を始めるきっかけや経緯、現在の活動など、具体的な体験談を交えてざっくばらんにお話いただきました。

また、後半は参加者が四、五人ずつテーブルに分かれ、各テーマについてワークショップ形式でディスカッションを行う参加型のプログラムとなっています。

参加者へのインタビュー

これまで「NPO夜学」に全回参加している、佐藤司さん、矢島優子さんにお話を聞きました。

——NPO夜学に参加してからNPOへの気づき、意識の変化について

佐藤さん「NPOは地域の課題を解決する存在として、全国各地に存在していると思っていました。また、制度に則った組織であるという認識はありませんでしたが、市民団体というレベルで接しているくらい、知識と理解が乏しいものでした。NPO夜学に参加して、特に意識を改めさせられたのは、NPOのミッションについてです。ミッションこそ、NPOだというくらい、日々その自覚を持って活動に臨まれている姿に、私自身の市民活動を見つめ直す機会となりました」。

矢島さん「参加前はNPOにあまり関心はありませんでしたが、『N

POの活動が自分自身の仕事にも影響し、どちらか意識のある仕事になってくる』というゲストの言葉が印象に残っており、仕事との向き合い方を更に考えるようになりました。NPOのリーダーや参加者の想い・新しい価値観に触れることにより新たな自分を得られたように思います」。

——今後どんな風に、NPO、市民活動と関わっていきたいか?

佐藤さん「私のミッションである『学生に『宮城で大学生活を送りたい』と思ってもらえるまちづくり、ひとづくり』達成のため、地域の社会教育力の向上から、市民と地域文化の循環としての、市民活動のきっかけを提供したいです」。

矢島さん「今後仕事との両立と自分自身の活動のイメージが明確になったら、将来的にボランティアや会員という形でNPOや市民活動に参加したいと思っています」。

一人一人のミッション実現に向けて

NPO夜学は年代も性別も職業も超えて、市民活動に対しての意識や、それぞれの想い・考えを共有する貴重な場となっています。自分のペースで、自分に合った活動を、参加者同士が一緒になって考え、模索し、最初の一步を踏み出せるようなきっかけを作っていきます」。

プラザのNPO講座・相談

お申込みはコチラから

NPO法人の会計監査のポイント

3/19(水) 13:30~16:30

NPOのための総会運営講座

3/26(水) 14:00~16:00

法人設立・運営相談

毎週水曜 13:00~17:00

会計・税務相談

3/13(木) 13:00~17:00

みやぎNPOプラザ

〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5
(指定管理者・特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる)

☎ 022-256-0505

☎ 022-256-0533

✉ npo@miyagi-npo.gr.jp

●みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。

みやぎNPO情報ネット

<http://www.miyagi-npo.gr.jp/>

第26回 地域福祉を支援する「わかば基金」

●支援内容：【支援金部門】

対象：国内のある一定の地域に福祉活動の拠点を設け、この支援金でより活動の輪を広げたいというグループ

助成金額：1グループにつき、最高100万円
(7グループほどを支援予定)

【リサイクルパソコン部門】

対象：パソコンを利用して、すでに地域で活発な福祉活動に取り組み、台数を増やすことで、より高齢者や障害のある人に役立ち、活動の充実を図れるグループ

贈呈台数：1グループにつき3台まで
(総数50台支援予定)

【東日本大震災復興支援部門】

対象：東日本大震災の被災地に活動拠点があり、その地域で福祉活動をすすめているグループ
支援金で活動場所の再整備を進めたい、被災地に必要な新たな事業を展開したいと考えているグループ

助成金額：1グループにつき、最高100万円
(7グループほどを支援予定)

●対象団体：地域に根ざした福祉活動を展開しているグループ
NPO法人を除く法人格をもっている団体は対象になりません

●募集締切：3月31日(月) 必着

●連絡先：社会福祉法人NHK厚生文化事業団「わかば基金」係
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-4-1 第七共同ビル
TEL：03-3476-5955
E-mail：info@npwo.or.jp

平成26年度 タカラ・ハーモニストファンド助成事業

●支援内容：所定の要件を満たす、日本の緑を構成する森林等の陸域、または海、湖沼、河川等の水域の自然環境(生物の生態把握等も含む)に関する実践的な研究・活動

●対象団体：研究・活動主体の資格は問わない
(所定の要件を満たす個人・団体)
※過去に当ファンドの助成を受けていない応募者を優先

●対象期間：原則として助成金贈呈日より1年間
助成金を2年間にわたって利用することも認める

●助成金額：総額500万円程度(助成件数10件程度)

●募集締切：3月末日 必着

●連絡先：公益信託タカラ・ハーモニストファンド事務局
〒600-8006 京都市下京区四条通高倉東入立売中之町84
みずほ信託銀行株式会社 京都支店 営業2課 古儀
TEL：075-211-6231 FAX：075-212-4915
URL：http://www.takarashuzo.co.jp/
environment/fund/

2014年度 「連合・愛のカンパ」地域助成

●支援対象：以下の社会貢献活動

- 1)大規模災害などの救援・支援活動
- 2)戦争や紛争による難民救済などの活動
- 3)人権救済活動 4)地球環境保全活動
- 5)ハンディキャップをもった人たちの活動
- 6)教育・文化などの子どもの健全育成活動

7)医療や福祉などの活動

8)地域コミュニティ活動(レクリエーション活動を除く)

9)生活困窮者 自立支援活動

●対象団体：1)地方連合会の推薦がある団体

2)連合組合員およびその家族、あるいは退職者が、積極的にNPOなどの運営に参加している団体

3)地方連合会が日常的な活動で連携している、NPO等の団体
(構成組織が推薦する場合も地方連合会へ申請すること)

●対象期間：1年間。ただし必要と判断した場合は通算3年を限度とします

●募集締切：3月31日(月)

●連絡先：※「申請団体・組織」が所在・活動する「地方連合会」までご連絡ください

(宮城県の連絡先)連合宮城

〒980-0014 仙台市青葉区本町2-12-7

TEL：022-263-9762

平成26年度 街なか再生助成金事業

●助成対象：・街なかの再生に寄与する土地区画整理事業等の市街地整備を推進する初動期の取組み
・中心市街地活性化基本計画(旧法の計画を含む)等の達成に寄与するために実施する、街の新たな魅力・可能性の発掘、資源(歴史的建造物等)の活用等に関する検討・活動等

●対象団体：主にまちづくりに寄与する活動・運動・事業を行っている団体。但し、全国を対象としているグループは対象になりません

●助成金額：1件あたり100万円を限度とします。(4～5件程度)

●対象期間：平成26年度末日迄

●募集締切：3月31日(月) 消印有効

●連絡先：公益財団法人区画整理促進機構
街なか再生全国支援センター
〒102-0084 東京都千代田区二番町12番地12
B.D.A.二番町ビル2階
TEL：03-3230-8477 FAX：03-3230-4514
E-mail：mail@sokusin.or.jp

2014年度 全労済地域貢献助成事業

●助成対象：(1)地域の生態系を守る活動
(2)低炭素・循環型の地域社会をつくる活動
(3)地域の自然や環境の大切さを学ぶ活動
(4)子どもや親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりを生み出す活動
(5)困難を抱える子ども・親が、たすけあい、生きる力を育む活動

●対象団体：日本国内を主たる活動の場とする、設立後1年以上の活動実績を持つNPO法人、任意団体、市民団体で、直近の年間収入が300万円以下の団体(前年度の繰越金を除く)

●対象期間：2014年7月20日～2015年7月19日に実施する活動
●助成金額：1団体あたりの助成上限額30万円
(助成総額2,000万円(上限)予定)

●募集期間：3月26日(水)～4月9日(水) 必着

●連絡先：全労済 総務部内 地域貢献助成事業事務局
TEL：03-3299-0161 FAX：03-5351-7772
E-mail：90_eco@zenrosai.coop
※詳細は全労済のホームページをご覧ください

療法は、うつ病や不安障害（パニック、心的外傷後ストレス障害(PTSD)など）を改善する、最新の認知行動療法です。

- 日 時：3月22日(土)10:00～16:30
- 場 所：石巻保健相談センター 3階講義室
(宮城県石巻市銚銭場1-27 JR仙石線石巻駅から徒歩1分)
- 講 師：大田健次郎氏
(マインドフルネス総合研究所代表)
- 内 容：第1部10:00～12:00
「マインドフルネス心理療法とは」
第2部13:30～15:15
「うつ・不安を克服する呼吸法」
第3部15:30～16:30
「今後の実施計画検討会議」
- 定 員：100名
- 参 加 費：無料
- 申込方法：メールまたは電話で、氏名、お住まいの市町村、連絡先、参加する部を下記連絡先までお知らせください
- 申込締切：3月18日(火) ※定員になり次第、締切
- 主 催：NPO法人マインドフルネス総合研究所
- 連 絡 先：TEL：048-769-2036
E-mail：saitama@co.email.ne.jp

3/23 NPO活動お試し体験の会 NPO法人ふうどばんく東北AGAIN

退職後に、地域や社会で何かの役に立ちたいと考えるシニア世代の皆さん。しかし自分がどのように役に立つことができるのか、分からないという方も多いようです。そこで、実際に活動に参加・体験していただく機会を設けました。今回出かけるのは「NPO法人ふうどばんく東北AGAIN」。食べ物を通じていのちを支える社会貢献。フードバンクの活動に参加しませんか。

- 日 時：3月23日(日)9:20～13:00
- 場 所：仙台市福祉プラザ9階 調理実習室
- 内 容：団体が企画実施する食事会の準備から開催までの一連の活動を体験
- 案 内 人：高橋陽佑氏
(NPO法人ふうどばんく東北AGAIN 事務局長)
- 対 象：おおむね55歳以上の方
・地域や社会貢献活動に興味・関心のある方
・地域・市民活動の内容や参加のしかたについて知りたい方・体験したい方
・シニア世代が活動している事例を知りたい方
・シニア活動支援センターの活用方法を知りたい方 など

※夫婦や仲間同士での参加も大歓迎!

- 定 員：10名(先着順)
- 参 加 費：無料
- 申込方法：名前、年齢、自宅か勤務先の連絡先(電話番号、FAX、メールアドレス)を明記の上、下記連絡先まで申込
- 申込締切：3月17日(月)
- 主 催：仙台市シニア活動支援センター
- 連 絡 先：(担当：小林・葛西)
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3
仙台市市民活動サポートセンター 3階
TEL：022-217-3983 FAX：022-217-3984

3/27 簡単ホームページ作成講座

団体の活動が市民から信頼され支持されるためには、積極的に情報発信することが重要です。簡単に費用をかけないでスマホにも対応したホームページの作り方を指導します。

- 日 時：3月27日(木)10:30～16:30
- 場 所：みやぎNPOプラザ 研修室
- 対 象：パソコンの基本操作ができる方
- 定 員：5名(先着順)
- 申 込：3月22日まで下記ホームページの申し込み欄から
- 参 加 費：3,500円
実習用のパソコンはこちらで用意します
(Wi-Fi対応であれば持ち込み可)
- 主 催：NPO法人イー・エルダー東北支部
- 連 絡 先：TEL/FAX：022-796-8091
E-mail：tohoku@e-elder.jp
URL：http://www.e-elder.jp/tohoku/

4/7 仙台傾聴の会 被災者支援 傾聴茶話会

グチや不平・不満など、いままであまり他に言えなくて…聴いてくれる人がいれば話せるかも…そんな話、こんな話、お茶を飲みながらゆっくり話してみませんか。被災された方、一般の方も、どうぞお越しください。

- 日 時：4月7日(月)10:30～12:00
- 場 所：仙台市市民活動サポートセンター 4階 研修室5
- 参 加 費：無料
- 申込方法：不要(直接会場へお越しください)
- 主 催：NPO法人仙台傾聴の会
- 連 絡 先：TEL/FAX：022-343-9705
携帯電話：090-6253-5640
E-mail：moriyama-e@tulip.sannet.ne.jp

情報をお待ちしています

- 申込方法：問合せ先を明記の上(初めてご利用いただく団体は団体概要も添付)、FAX、e-mail、郵送にてお寄せ下さい。 **掲載は無料です!**
- 締切：毎月15日(翌月10日以降開催・締切となる情報を掲載します)
- 誌面の都合で掲載できない場合があります。○お問合せは事務局まで。
※申込みいただいた情報は「みやぎNPO情報ネット」にも提供いたします。

NPO法人杜の伝言板ゆるる

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-11-6 コーポラス島田B6

TEL:022-791-9323 FAX:022-791-9327

e-mail:npo@yururu.com

みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイト
「みやぎNPO情報ネット」

<http://www.miyagi-npo.gr.jp>



NPO法人杜の伝言板ゆるるが宮城県と協働で運用する、みやぎのNPO・市民活動を支援するWebサイトです。ボランティアやスタッフの募集、講座・イベントのお知らせ、助成金・行政情報など、市民活動・NPOに役立つ情報が満載です。問い合わせは、info@miyagi-npo.gr.jp まで

- 場 所：仙台市青葉区立町20-11 ミカミハウス
2階 ハート&アート空間ピーアイ

【出店者募集要項】

- ・1ブース出店料500円
(1m×1m、衣類・文房具・雑貨・本など)
(2ブース目から100円引き!ご希望のブース数をご記入ください)
- ・ナマモノ、イキモノはご遠慮ください
- ・子どものみの参加もOK!(小学生以上)
- ・しつらえやブルーシートの準備、貴重品・釣銭の管理、販売も各自でお願いします
- ・申込用紙をご記入の上、ブース分の出店料を持参、または切手でピーアイまで郵送してください。申込書記入・ご入金の確認をもって、受付完了となります(申込20ブース先着順です)

- 主 催：ふくしまほっこりカフェ実行委員会
●連 絡 先：〒980-0822 仙台市青葉区立町20-11
ミカミハウス2階
ハート&アート空間 ピーアイ内
ほっこりフリマ係(担当：槇島)
TEL：022-262-2969 FAX：022-262-2975
E-mail：zoukabako@gold.ocn.ne.jp

3/18 カラーユニバーサルデザイン講座

日本では、20名に1人、全体で約320万人の色弱(色覚異常)者がいます。印刷物や屋外のサインなどは、そういった人たちに配慮された色彩になっているのでしょうか。実例を参考にしながら、どんな人にもしっかり伝わる色彩の選び方、組み合わせ方を学びます。

- 日 時：3月18日(火)19:00～20:30
●場 所：仙台市市民活動サポートセンター 研修室2
●講 師：真山正太氏(グラフィックデザイナー)
●定 員：15名(事前申込み受付順)
●参 加 費：1,000円(当日会場にてお支払いください)
●主 催：一般社団法人メディアデザイン
●連 絡 先：(担当：千葉)
〒980-0801 仙台市青葉区木町通1-1-11
朝日プラザ北一番丁1階
TEL(携帯)：090-3049-0613
FAX：022-224-5308
E-mail：kouza@mediadesign.jp
URL：http://mediadesign.jp/

3/18 おんぶだっこカフェ

我が子の甘えんぼ攻撃に、なかなか家事がはかどらない!!とお困りではありませんか?子どもとのふれあいを大切にしながら、家事がはかどる、母にも子にもダブルで嬉しいベビースリングでの“だっこ”と兵児帯での“おんぶ”の体験会です♪

- 日 時：3月18日(火)、3月25日(火)
いずれも10:30～11:30
●場 所：エル・ソーラ仙台託児室(AERビル28・29階)
※3/18はエル・パーク仙台フィットネススタジオ
(141ビル 5・6階)
●参 加 費：500円(ホットドリンク&スイーツ付)
●申込方法：下記連絡先にE-mailで申込み
申込み時、参加希望開催日、氏名、連絡先、お子さんの月齢を明記して下さい。

- 申込締切：参加希望開催日の3日前まで
●主 催：こひつじる〜む
●連 絡 先：TEL：070-5322-0046
E-mail：kohitujirou@gmail.com
URL：http://happy.ap.teacup.com/mamasirokodoniwa/

3/19 森林交流会&記念講演会 里山資本主義 ～地元を活かす 豊かな暮らし(システム)～

発展したマネー経済に頼っていた私たちが体験した「震災」は、その危うさを露呈させ、不安・不満・不信が広がりました。マネー経済とは異なる、地に足をつけたサブシステム「里山資本主義」は、これからの暮らしを本当の意味で豊かにする大きな可能性を秘めています。

- 日 時：3月19日(水)18:30～20:30(17:30開場)
森林活動団体PRブースエリアは15:00～
●場 所：せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア
●内 容：★記念講演「里山資本主義～地元を活かす豊かな暮らし(システム)～」
講師：藻谷浩介氏(株式会社日本総合研究所 調査部 主席研究員)
★森林活動団体PRブースエリア
15:00～入場自由

- 定 員：200名
●参 加 費：無料
●申込方法：名前、所属、電話番号を明記の上、下記連絡先まで申込
※講演会のみ受付。ブースエリアは入場自由
●主 催：公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)
●連 絡 先：〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45
フォレスト仙台5階
TEL：022-276-5118 FAX：022-219-5713
E-mail：melon@miyagi.jp
URL：http://www.melon.or.jp/melon/

3/21 テーブルゲームであそぼう! 15

国内外のボードゲームやカードゲームを、こどもも大人も一緒に遊べます。ご家族やお友達と、ぜひ、ご参加ください。

★スタッフとしてお手伝いいただくボランティアも同時募集しています。興味のある方は、事前に連絡先にお問い合わせください。

- 日 時：3月21日(金・祝)13:00～16:00
●場 所：仙台市青葉区中央市民センター 2階 和室
●対 象：どなたでも(小学生以上を想定していますが、保護者同伴で年長児さんも参加しています)
●参 加 費：無料
●申込方法：不要。直接会場にお越しください
●主 催：こりれいず
●連 絡 先：TEL：070-5470-6355
E-mail：korireizu@gmail.com

3/22 「マインドフルネスによる被災地のメンタルヘルス」講演会

震災後、ひとりで悩んでいませんか?マインドフルネス心理

- 申込方法：スポーツショップマツムラ(0225-95-2923)にTELで申込み
- 主 催：NPO法人石巻スポーツ振興サポートセンター
- 連絡先：〒986-0822 石巻市中央2-10-13
TEL/FAX：0225-96-4334
URL：http://www.i-support.or.jp/

3/11 夢と希望のまちづくり講演会 —東北復興に向けた技術・自然の調和—

東日本大震災が私たちに教えてくれたことは、自然すべてをコントロールできるということは錯覚であり、人類はあらゆる生命を尊重しながら共に生きるしか持続的に生きていけないということです。未来になにを残すべきかを真剣に考え、「夢と希望のまちづくり」のためになにができるか、共に考えましょう！

- 日 時：3月11日(火) 18:00～20:00
- 場 所：東北福祉大学 けやきホール
(仙台市青葉区国見1丁目8-1)
- 内 容：★講演 講師 宮脇昭氏((公財)地球環境戦略研究機関国際生態学センター長)
★講演 菅原文太氏
★対談 「宮脇昭 & 菅原文太 & 今村文彦が大いに語る」
- 参加費：無料(事前申込み不要)
- 主 催：いのちを守る森の防潮堤推進東北協議会
- 連絡先：事務局(輪王寺内)
TEL：022-234-5327 FAX：022-275-5050
E-mail：rinnoji_jimusho@yahoo.co.jp
URL：http://morinobouchoutei.com/

3/13 つるがや元気会市民講座 「ゲームで学ぼう!地域の防災」仙台発そなえゲーム

「仙台発そなえゲーム」とはプレイヤーが仮想の地域住民となって、「災害に備えるために、自分や地域に何が必要か・何ができるか」について、考えながら実践的に学べる参加型ボードゲームです。

- 日 時：3月13日(木) 14:00～15:40
- 場 所：鶴ヶ谷市民センター(みやぎ生協鶴ヶ谷店2階)
- 講 師：古澤良一氏
(市民協働による地域防災推進実行委員会)
- 定 員：36名(先着順)
- 参加費：無料

縦覧中

NPO法人の設立を新しく申請した団体			
団体名	所在地	活動内容	受理日
宮城県等 パートナーシップ なとり	名取市	名取市における、市民活動やボランティア活動に関する情報収集及び市民活動団体への支援活動	1/20
名取ハマボウフウの会	名取市	ハマボウフウを中心とする海浜植物の保護育成を通じた、海岸環境保全活動	1/20
ジョイフル網地島	石巻市	石巻市の網地島における、住民参加型の島おこし活動	1/20
仙台市 宮城国際ビジネス 交流支援ネット	仙台市	国際ビジネス交流促進に向けた各種セミナー等の開催及び参画交流事業、文化・芸術・技術品等すぐれものの汎用化に向けた各種支援活動、すぐれものや各種特産品等の販売を支援する活動 等	2/7

- 申込方法：下記までTELにて申込み
- 主 催：つるがや元気会
- 連絡先：(担当:菅原)TEL：022-251-2932
(担当:芹澤)TEL：022-251-5663

3/14 地域のパソコンサポーターを目指そう! パソコンサポーター養成講座

地域でパソコンサロンの運営ができる、パソコンサポーターを養成する講座です。

- 日 時：3月14日(金)、18日(火)、19日(水)、20日(木)、24日(月)
各回13:30～16:30(13:00開場)
- 場 所：気仙沼中央公民館 3階 会議室1
(気仙沼市魚市場前1-1(無料駐車場有:30台先着))
- 内 容：パソコンの基本操作を分かりやすく指導する方法、伝え方やコミュニケーションの取り方などを学びます。
- 対 象：普段パソコンをお使いで、パソコン等の技術を人に教えることに興味がある方
- 定 員：12名(先着順)
- 参加費：5,000円(全5回分、テキスト代込み)
※手続き後のキャンセル・ご返金はできませんので、ご了承ください。
- 申込方法：下記連絡先まで、電話かメールにて申込
- 申込締切：3月12日(水)
- 連絡先：NPO法人ICT支援NPOネットワーク宮城
〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5
みやぎNPOプラザ レターケース39
TEL/FAX：022-293-7767
(火曜～土曜9:30～18:00)
E-mail：ict@ictnp-miyagi.jp
URL：http://www.ictnp-miyagi.jp/

3/16 ほっこりフリマ～出店者も募集します～

ビーアイでは一昨年5月より、東日本大震災・東京電力原発事故の影響により、福島県や宮城県南から仙台市付近へ移住されている方を対象に、お茶を飲みながらゆっくりお話ができるように、「ふくしまほっこりカフェ」を開催しています。このフリマの出店料は、「ふくしまほっこりカフェ」の運営資金とさせていただきます。

- 日 時：3月16日(日) 10:00～14:00

NPO法人に認証された団体			
団体名	所在地	活動内容	認証日
宮城県等 ユアパートナーおおさき	大崎市	在宅の障害者を支援する活動	1/20
石巻中里 スポーツクラブ	石巻市	子どもにスポーツの楽しさを教える活動及び地域住民の健康を推進する活動	1/31
仙台市 アンベエリテ	仙台市	被災者・地域住民のためのコミュニティサロンの運営、街なか活性化イベントの開催、学術、文化、芸術、スポーツに関するイベントの開催 等	2/6
市 留学支援協会	仙台市	留学・ワーキングホリデー手続き支援事業、低所得者層への奨学金制度事業、英会話講師の派遣事業 等	2/10

宮城県の
NPO法人数 **755** 団体
宮城県等所轄: 344団体
仙台市所轄: 411団体 ※2014年
2月10日現在

2/25 nisipirica(ニシピリカ) 「鎌田賢一×早坂幸雄2人展」

nisipirica (ニシピリカ) は黒川郡大和町にある、さをり織りのアトリエで生まれた織り物の名前です。今回はニシピリカのメンバー2人の展示会を開催します。2人のアーティストが作りだす、彩の世界を感じていただければ幸いです。

- 日 時：2月25日(火)～3月29日(土)11:30～16:00
※お休み：日・月・祝
- 場 所：Café & Art Restrant オリーブの風
(仙台市宮城野区榴ヶ岡5 みやぎNPOプラザ内)
- 主 催：nisipirica(ニシピリカ)
- 連 絡 先：NPO法人黒川こころの応援団
〒981-3621 黒川郡大和町吉岡字館下47
TEL：080-1804-1621(担当:遠藤)

3/1 「だから、石巻へ行こう!」 2014.3.1-3.31

東日本に甚大な被害をもたらした、大震災から丸3年。そして、4年を迎えようとしています。今だからこそ、この地で起きた震災についてお互いに学び、次に繋いでいくきっかけになるよう、多彩なプログラムを実施します!

- 日 時：3月1日(土)～3月31日(月)
- 場 所：石巻市内各所
- 内 容：★語り部を聞く会(3/8、3/22)
★ピースポート災害ボランティアセンタースタッフと街歩き(3/9、3/29)
★地元の若者と振り返る3.11(3/11)
※その他にも、開催プログラム多数。
詳細はHPをご覧ください。
- 対 象：どなたでも
- 定 員：各プログラムごとに設定有
- 参 加 費：各プログラムごとに設定
- 申込方法：下記いずれかの方法で、事前申込(プログラムごとの予約となります。事前にご参加されるプログラムをお選びください)
①公式サイト(<http://pbv.or.jp/ishinomaki-psen/>)から申込フォームへ

②下記連絡先へ、FAXあるいはメールにて、氏名、連絡先、参加を希望するプログラムを明記の上、申込

- 主 催：ピースポート災害ボランティアセンターいしのまき
- 連 絡 先：担当 岡本
〒986-0824 石巻市立町1-5-21
TEL:0225-25-5602(10時～18時 金曜日定休)
FAX：0225-25-5603
E-mail：pbv.vo.ishinomaki@pbv.or.jp
URL：http://pbv.or.jp/ishinomaki-psen/

3/9 仙台の8ミリ映像&写真でたのしむっ茶会

市民が撮った仙台のまちの様子を映した8ミリ映像や、懐かしい道具などを見ながら、昭和時代の記憶をみんなで楽しく語る会です。

- 日 時：3月9日(日)10:00～12:00
- 場 所：仙台市宮城野区文化センター 3階 第三会議室
- 参 加 費：無料。申込不要
- 企 画：NPO法人20世紀アーカイブ仙台
- 主 催：仙台市宮城野区文化センター
(公益財団法人仙台ひと・まち交流財団)
- 連 絡 先：仙台市宮城野区文化センター
〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-12-70
TEL：022-257-1213 FAX：022-352-6221

3/11 3.11を忘れないウォーキング

震災から3年。石巻を一望できる馬っこ山へ登り、気持ちを新たに次の復興へ向かいましょう。

- 日 時：3月11日(火)
9:00スタート～13:00解散予定
※昼食休憩は行程に含みません。昼食は解散後、各自お願い致します。
- コ ー ス：石巻駅～開成仮設団地～トヤケ森山(馬っこ山)～北上川～石巻駅
※コース(距離約13km)は予定です。
- 参 加 費：1,000円(参加賞あります!)
- 注意事項：★イベント中のけが、事故などは応急の対応は致しますが、それ以上の責任は負いかねますのでご了承下さい。
★ゴミは各自お持ち帰りください。
★荒天の場合を除き、雨天決行致します。

かほく「108」クラブ通信 河北TBCカルチャーセンター

当社は仙台市青葉区のJR仙台駅エスパルビルに本部を置き、エスパルとメルパルクビル(宮城野区榴岡)の2教室でカルチャー講座を運営しています。

講座数はおおよそ350。「文学と教養」「絵と書」「工芸・手芸」「食卓」「美容と健康」「暮らしと趣味」などさまざまな分野の教室が、初心者

からハイレベルなベテランまでそれぞれの段階に合わせて開かれています。

創業31年目に入りました。東日本大震災の後、受講生は15%近く減ってしまいましたが、人と人の心の交わり、人の和と輪を培う場を提供する役割を忘れずに、歩んでいきたいと願っています。



▲教室からたくさんの交流が生まれます

は、利用者の方に自由に野菜を育てていただけます。BBQ、芋煮などの交流イベントも！少しでも興味のある方は是非、下記連絡先へお問い合わせの上、説明会へお越しください。

- 募集区画：三本塚市民農園
住 所：仙台市若林区三本塚境堀172
募集数：8区画(1区画=5m×5m)
- 賃 料：月1,000円
- 説明会日程：★仙台市民活動サポートセンター 研修室1
3月9日(日)10:30～12:00
13日(木)10:30～12:00
20日(木)10:30～12:00
30日(日)14:30～16:00
★七郷市民センター
・視聴覚室
3月2日(日)14:30～16:00
・第一研修室
3月6日(木)14:30～16:00
23日(日)13:30～15:00
29日(土)13:30～15:00
- 連 絡 先：ReRoots若林ボランティアハウス(担当：金戸)
TEL/FAX：022-762-8211
E-mail：reroots311@yahoo.co.jp

貸ギャラリーあります

～オリジナルの作品展を開いてみませんか～

当店の壁面ギャラリーを利用して作品展を開催される方を募集します。

※ご利用にあたり、簡単な審査があります。詳細につきまして、お気軽にお問合せ下さい。

- 場 所：Caf'e&Art Restaurant オリーブの風
(仙台市宮城野区榴ヶ岡5 みやぎNPOプラザ内)
- 展 示 品：絵画・写真・版画・手芸品 など
- 費 用：無料
- 期 間：約1ヶ月(応相談)
- 主 催：NPO法人シャロームの会
- 連 絡 先：担当(伊勢、牛澤)
TEL：080-5731-4345(火～土 9:00～17:00)

バリアフリーつくり塾生募集

捨てるに捨てられないお気に入りの服、箆笥に眠っている着物…リフォームしたり、リメイクしたり、楽しみながら「つくり」ませんか？そして、自分だけの着心地の良い服を、創りましょう！一度、見学にお出かけください。

- 日 時：土曜日(月3回)13:00～15:00 ※要予約
- 場 所：みやぎNPOプラザ 会議室
- 対 象：女性限定
- 月 謝：3,000円(年会費2,000円)
- 主 催：ユニバーサルファッション工房 繕
- 連 絡 先：TEL：090-9037-5556(担当：佐藤)

NPO会計の頼れる助っ人！会計サポーター派遣

NPO法改正により、平成24年度から各NPO法人は「活動計算書」による、会計報告を義務づけられています。「活動計算書」の様式が分からない、作成してみたけれど自信がない、今年が初めての決算で困っている…。そんな悩みはありませんか？会計サポーターが、一からご説明します。

- 派遣対象：宮城県内のNPO法人
- サポート内容：活動計算書作成業務についてのアドバイス
※税金関係の相談はサポート対象外
- 派遣期間：～平成26年3月20日(木)
※20日以降のご希望は、ご相談ください。
- 派遣日数：1団体3日まで
- 派遣経費：無料
- 申込方法：団体名、担当者名、派遣希望日、派遣場所を明記し、FAXかメール、または申込フォーム(<http://p.t/Uucl>)からお申込みください。
- 申込期間：平成26年3月10日(月)頃まで
先着順、延べ80団体
- 主 催：宮城県
- 企画実施：NPO法人杜の伝言板ゆるる
- 連 絡 先：NPO法人杜の伝言板ゆるる事務局
※連絡先は、裏表紙下部をご覧ください。

電話相談

ママパパライン仙台～3.11ささえダイヤル～

震災によるつらい気持ち、子育ての悩みや不安、グチでも何でも、専門の研修を受けた傾聴スタッフが、じっくりお話をお聞きます。ため込んでいた思いを吐き出して、気持ちを楽にしませんか？子育て中の方なら誰でも匿名で相談できます。

- 相談電話番号：022-773-9140(通話料自己負担)
- 日 時：3月10日(月)～3月14日(金)10:00～16:00
※上記以外の期間は、毎週金曜10:00～16:00に開設
- 連 絡 先：NPO法人せんだい杜の子ども劇場
〒981-3133 仙台市泉区泉中央4-17-1
TEL/FAX：022-375-3548
E-mail：morinokodomo@s8.dion.ne.jp

ありがとうございます!!

今月の新入会員・継続会員 (2014.2.16現在) 敬称略

●正会員 50名

★登米市 ●NPO法人どんぐりの家 ●石川志穂子

●賛助会員 80名

★仙台市 ●中村祥子

会 員 募 集

杜の伝言板ゆるるは、地域の課題を解決するために活動するNPOの継続的運営や、それに参加するボランティアの育成を支援している団体です。特に1997年に創刊した月刊杜の伝言板ゆるるは市民活動やボランティアをしたい市民、それを応援したい企業、行政、そしてNPOをつなぐ情報誌として広く活用されています。これからもNPOや参加する市民にとって役立つ情報を発信し、地域の生活環境が向上するように活動していきますので、ぜひ、私たちの会員となって応援してください!!

会員種類	年会費
正会員個人・NPO	10,000円
正会員法人	20,000円
賛助会員個人	3,000円
賛助会員NPO	5,000円
賛助会員企業・団体	20,000円

■会員には毎月「月刊杜の伝言板ゆるる」が届きます。
※正会員以外は、総会での議決権がありません。

郵便振替口座

口座番号 02250-0-43800

加入者名 特定非営利活動法人 杜の伝言板ゆるる
(会員申込の方は、通信欄に会員の種類をご記入ください。)

information

2月15日までにゆるる編集部へ届いた情報です。
詳細は各情報の連絡先にお問い合わせください。

ボランティア情報

仙台短篇映画祭 スタッフ募集

2014年度の開催に向けて仙台短篇映画祭では、ボランティアスタッフを募集しています。

映画祭を通じて一緒に仙台を盛り上げませんか？経験が無くても心配という方も、映画に興味のある方はぜひご相談ください。

- 活動内容：★プログラム企画の立上げ
★宣伝、協賛活動
★当日の運営 など
- 対象：・年間を通してプログラム企画の立ち上げから当日の運営まで関わってくれる方
・HP作りや、チラシ等のデザインに興味のある方
・映画制作に興味がある、カメラ等の記録用機材を扱える方
・チラシ配布や、新聞・ラジオ・WEBで広報活動ができる方
・とくに、平日・昼間に活動できる方、歓迎です
- 申込方法：下記連絡先までご連絡ください
- 募集主体：仙台短篇映画祭実行委員会
- 連絡先：〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
せんだいメディアテーク7階 企画・活動支援室内
E-mail: info@shortpiece.com
URL: <http://www.shortpiece.com/>
ブログ: <http://shortpiece.blog9.fc2.com/>

「3.11 関上追悼イベント2014」ボランティア募集

3.11 関上追悼イベント2014のボランティアを募集します。
是非ご協力をお願いします。

※活動内容・時間は、開催日により異なりますので、ご確認ください。

- 活動内容：★3月8日(土)13:00~16:00
旧関上小学校体育館(名取市関上字鶴塚52)
絵灯籠の組み立て作業
★3月9日(日)9:00~20:00
旧関上小学校グラウンド(名取市関上字鶴塚52)
及び関上地区
絵灯籠、キャンドル飾りつけ設置と管理、片付けまで
★3月11日(火)10:00~20:00
旧関上中学校(名取市関上字五十刈1)北側道路 他
絵灯籠飾りつけ設置と管理、片付けまで
※作業時間は若干変更する場合があります。
- 募集人数：3月8日(土)40名
3月9日(日)100名
3月11日(火)40名
- 食事：各自持参
- 保険：各自でボランティア保険の加入をお願いします。
- 服装：★活動場所によっては、汚れる作業や、屋外の

ために天候に左右される恐れがありますので、汚れてもよい、寒くない格好でお越しください。
★3月9日、11日の活動では、軍手やマスク、懐中電灯などがあると良いと思われますので、各自ご持参ください。

- 交通手段：★原則として活動場所集合
★公共交通手段がない場所もあるので、自家用車や原付等でお越しください
- 申込方法：所属、氏名、参加希望活動日、連絡先(携帯番号・メールアドレス)、予定している交通手段を明記の上、下記の連絡先にE-mailで申込
- 応募主体：なとり復興プロジェクト3.11 関上追悼イベント2014実行委員会
- 連絡先：ボランティア担当 佐藤
E-mail: t_sato@shokei.ac.jp
URL: <http://www.yuriage.jp/volunteer/>

こどもがつくるまち「Piccoli сендай」2014 実行委員募集！

こどもがつくる、こどもだけのまち「Piccoli сендай」の企画・運営をしていただける方を募集しています。
11月に開催する「Piccoli сендай」2014当日に参加して頂けるサポーターも同時募集！こどもが好きな方、特技を活かしたい方、企画に興味のある方、どんな方でも大歓迎です。

※こどもがつくるまち「Piccoli сендай」2014 は、2014年11月1日(土)~3日(月・祝)宮城野区文化センター・宮城野区中央市民センター(宮城野区五輪2-12-70)で開催。

- 日時：毎月1回(実行委員会会議)、毎月第2、4日曜日(こども会議)
- 活動内容：★「Piccoli сендай」2014運営事務局
★こどもたちに向けた研修の準備等
- 募集人数：50名(男女問わず)
- 参加費：無料
- 報酬：活動経費依頼者負担、交通費は11月開催当日のみ支給
- 託児：なし
- 申込締切：3月末日
- 申込方法：下記連絡先に直接お問い合わせください
- 募集主体：ピコセンサポーター
- 連絡先：担当者:細工藤
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町14-15
TEL: 080-2823-0872 FAX: 022-296-6056
E-mail: piccolisendai@gmail.com
URL: <http://picosen.webcrow.jp/>

事業案内

三本塚市民農園 利用者募集 説明会開催

週末に！畑で野菜を育ててみませんか？三本塚市民農園で



かほく「108」 ファンド



かほく「108」クラブは、社会貢献活動の推進を目的として河北新報グループ12社と、そこに働く従業員で構成し、寄附を出し合って運営している任意団体です。

助成金の申請を
受け付けます。

応募期間 3月1日(土)～3月31日(月)消印有効

対象団体 宮城県内で活動し、1年以上活動実績があり、活動は非営利、公益的なものであること。(法人格の有無不問)

助成対象 「子ども」をテーマに、子どもにかかわる活動を展開している団体。
(例)「子どもの健全育成」「子育て支援活動」「いろいろな文化を通じた子どもの育成」など

助成金額 1件上限20万円(総額は150万円)

平成26年

かほく「108」ファンド受付開始
<http://blog.kahoku.co.jp/csr/>

連絡先

かほく「108」クラブ事務局

〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28 河北新報社総務広報部内

TEL:022-211-1447 FAX:022-211-1448 E-mail:k108@po.kahoku.co.jp

◆〈ろうきん〉は「助け合い」の金融機関。働く人の暮らしと福祉、社会の充実に取り組みます◆

宮城県との提携による低利な融資制度!!

宮城県勤労者 融資制度

をご活用ください!!

通勤用マイカー資金、
リフォーム資金等
はたらくみなさんをバックアップ

■宮城県生活資金■

ご利用いただける方

- ①住所が勤務先が宮城県内にある中小企業にお勤めの方
- ②原則満20歳以上で、勤続1年以上、前年税込み年収150万円以上の方
- ③当金庫の審査基準を満たされる方

お使いみち

- ①通勤用マイカー購入資金②住所移転費用③結婚・出産・療養・葬祭に要する費用
- ④納税に要する費用⑤住宅修理・付帯設備設置、災害復旧の費用
- ⑥介護機器等の購入費用⑦上記①～⑥をこの制度に借り換える費用
(日常生活費及び上記使途以外の借り換え費用にはご利用できません。)

ご融資金額

最高200万円 最長5年 (条件により1年以内の
元金据置期間含む)

ご融資期間

ご融資金利

年2.50%(固定金利)

担保・保証人

当金庫指定の保証機関をご利用いただけますので原則不要です。
保証料は別途必要になりますが、保証料が補給される制度もあります。

2014年3月1日現在



お問合せ・お申し込みは〈東北ろうきん〉宮城県内の最寄りの店舗へ

☎ 0120-1919-62